

シグマ研究委員会

昭和58年度第4回運営委員会議事録

日 時 昭和58年9月2日(金) 13:30～17:30
場 所 原研東海研 研2-222号室
出席者 原田(委員長, 原研)
白方(動燃), 梶山(東北大), 関(FBEC), 中沢(東大炉),
中嶋(法大), 五十嵐, 菊池, 田中, 松浦(原研)
オブザーバ, 秋山(東大炉), 鹿園, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(58.7.22)議事録(案)
2. G.F. Auchampaugh氏から原田氏への手紙(写)
3. 学会特別会合・原子力総合シンポジウム
4. 原子力学会'83秋の分科会 核物理・核データ関係セッション
5. IAEA handbook of recommended nuclear data for safeguards の作成についての IAEA/NDSの質問への返答(案)
6. 核データ研究会プログラム案改訂の趣旨説明
7. JENDL-3 収納核データ評価分担表
8. JENDL-3 タイムスケジュール

議 事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) プログレスレポート発行の報告
 - (2) 専門委員の追加発令について報告があり, 近く次の委員を追加発令することが了承された。
戸塚雅章氏(日揮(株)), 土井 猛氏(石播重工, 大村博志氏と交代する), 中川庸雄氏(原研)
 - (3) 最近核データセンターが入手したデータ等について報告があった。
 - (4) 原田氏から資料2により次回の核データに関する国際会合について説明があった。
 - (5) 五十嵐氏から学会特別会合での講演「原子炉解体における核データ」の題名を

「原子炉解体における放射能インベントリ―評価技術の開発」に変更になったことの報告があった(資料3)。また、原子力総合シンポジウムのプログラムでは、核データと事故時のデータベースのテーマを中テーマ「国際協力センター」の中で扱うとの説明があり、この件は神田氏(九大)に再度検討してもらうことにした。

- (6) 原田氏から「アジア地域核データセミナー」の予算要求の科技厅の査定結果について報告があった。
- (7) 特殊目的核データについての作業状況について報告があり、次回に表を提出してもらうことにした。
- (8) 木村氏(京大炉)からトリウム・サイクル用の ENDF/B-V のデータの入手について打診して欲しいとの要請があり、現在BNLへ問合せ中である旨、五十嵐氏から報告があった。

3. 大学関係の核データ活動状況

梶山氏から、最近行われたトリウム関係の研究会(8/10)、エネルギー特別研究の核融合関係の報告会(8/22-25)及び近く行われる核融合炉とトリチウム増殖の研究会(9/12-13)について説明があった。東北大の吉原氏の作成した Periodic Table with Nuclides の紹介があった。

4. 核データ小委員会

原田氏から、8月5日に行われた核データ小委員会について報告があった。カールスルーエが行っていた荷電粒子データの収集活動が中断したのに伴い、国際的にボランティアを募ることになり、日本では理研がRI生産用荷電粒子反応を担当することになった。担当者は橋爪氏である。

5. 2年報準備委員会報告

松本氏から2年報の原稿はほぼ集っており、9月5日の準備委で検討した上で学会誌の編集委に提出するとの報告があった。これに関連して田中氏から編集委で検討している和文誌の解説記事について説明があった。また、五十嵐氏からJENDL-2の解説記事の原稿執筆について説明があった。

6. NEANDC 第24回会合の Topical Conference の準備

秋山氏から、準備委は(崩壊熱関係)秋山、松本、(核データ関係)川合、中島の各氏で構成し、9月中旬に2~3回会合してO次案をつくり、その後で外国からの要望を聞くとの報告があった。

7. 研究会プログラム

中沢氏から、資料6により研究会の最終案の説明が行われた。その中でプログラム

を学会誌の10月号に掲載して公示すること、今後、ポスターセッションのやり方について詰める必要があること等の話があった。

8. IAEA Handbook に対する回答

松浦氏から資料5により、IAEA Handbook on Nuclear Data for Safeguards に対する回答案の説明があった。なお、さらに追加するものがあつたら1週間以内に連絡して欲しいとのことであつた。

9. JENDL - 3 作成状況

菊池氏から資料8にもとづき、JENDL - 3のタイムスケジュール、核データ専門部会内での評価作業の進行状況、今後の予定等について説明があつた。この中で大部分のデータ評価は1985年(60年度)中に終了すること。JENDL - 2のFPファイルの作業状況、JENDL - 3との関連等の話があつた。

引き続いて浅見氏から、資料7によりJENDL - 3のデータ評価の分担案の説明とともにJENDL - 2のレポート、データ集の刊行予定等についての説明があつた。これらに関連して作業が遅れている原因についての討議があつた。

10. 専門部会報告

中嶋氏から核構造・崩壊データ専門部会の報告として、核種生成量評価WGの最近の作業状況についての説明があつた。これに関連して電力会社からデータを提供してもらうことの可能性について議論があつた。また、崩壊熱評価WGでの崩壊熱計算結果についての説明も行われた。

関氏から、JENDL 積分評価WGでadjustmentの作業を分担して進めているとの報告があつた。

中沢氏から、核融合炉・遮蔽定数WGでFNS用のFeのDDXの評価を進めているとの報告があつた。

これらの報告に関連して、専門部会の報告はWGレベルでの特定のものをまとめて順ぐりに報告してもらったらどうかとの意見があつた。また、五十嵐氏からは、次回に呼ぶWGリーダーを提案して欲しいとの話があり、動燃の次期高速炉の話を書きたいとの意見も出た。

今回はJENDL - 2のFP核データ評価の現状について説明をしてもらうため、FP核データWGの話を書くことにした。

今回は10月21日(金) 午後に原研本部で行うことにした。